

北陸大学図書館報

NO.53



◆◆ 学生の皆さん 読書を楽しみましょう ◆◆

図書館長・薬学部教授

鍛治 聡

2021年度本学の学生の皆さんに図書館利用アンケートを行いました。利用する学生の皆さんの読書との関わりを知りたかったのです。1ヶ月の読書時間を問いました。図書館の利用者数の伸びによって思い浮かべた希望的数値からかけ離れていました。まあ学業が第一だから、仕方が・・・というレベルにさえ至らなかったのです。読書を楽しむどころではない。楽しんでいたらこんな数字にはならないのだよ。

まず、検証です。図書館の取り組みを一つずつ振り返りました。図書館へ学生の皆さんに来館してもらうために、学生参加型の読書推進企画を充実させたのです。筆頭は、読書感想文・書評コンクールです。読書習慣、読書への親しみを持つことで、学生の皆さんに読み取る力、感じる力と表現できる力を身に付けてもらうことが目的です。2001年から22年間継続しています（書評は2019年から）。ちなみに2022年度は320名の応募がありました。目的到達に一歩ずつです。表彰式も、ここ数年はコロナ禍のため人数を絞って実施したのですが、顕彰だけではなく、活発なビブリオトークが行われているのです。毎年、学生の皆さんから応募のあった作品一つひとつに思いが込められており、読書ならではの疑似体験に基づいて得た考えが書き込まれていることが伝わります。そして、入賞した学生の皆さんが、その作品に対する思いを迫力と説得力をもって語り、発表するビブリオトークの舞台は、それはそれは迫力があるのですよ。多くの皆さんにお見せできないのは、大変残念でもったいないことだと思っています。

次なる企画のオンライン学生選書会は、学生の皆さんに図書館へ入れたい本の選書をしてもらいます。自分が読みただけではなく、他の皆さんにも読んで欲しい本の選書をすることで、他の人に寄与する力を養うことができるのです。今年も10名を超える学生の皆さんが、教職員と異なる切り口の20冊余の本を推薦してくれたのですよ。さらに今年からの企画は読書会です。第1回目は7月8日に開催しました。当初は参加者が集まるのか不安の塊だったのですが、6名の参加があり自分が読んで面白かった・楽しめた・役に立った本を活き活きと紹介し、それに対して参加者同士で意見交換が行われるなど、大変盛り上がりました。読書好きな学生の皆さんが、太陽が丘キャンパスにも薬学キャンパスにもいるのだと安堵感を覚えました。学生の皆さんのためになる企画であると確信をしたので10月に第2回目も開催します。皆で検討して良かったです。よりいっそうの継続を！と思っています。ぜひ次回は我もと名乗りを上げて欲しいのです。大いに歓迎します。

本心から、読書離れという言葉を受けないようにしたいのです。学生の皆さんに、もっと図書館に来て欲しい、読書に親しんで欲しいと願ってやまないのです。数は不満ですが、熱量は最高です。応募・参集してくれた学生の皆さんの熱意は素晴らしいのです。読書からは様々なことが学べると信じています。様々な資格試験や就職試験などを受験する皆さんには、読書しながらメモを取り、この本・この章・この一節に書かれている重要なキーワードを読み取ることを習慣化し、自身の能力として獲得して欲しいのです。この能力・習慣は、必ず役に立ちます。また、読書は何も考えずに楽しむものでもあります。1冊の本を何度も繰り返して読んでみたり、図書館に収蔵されている本を読みあさってみたりなど、「心を無にして悩みを一掃」するための助力にもなります。さらに、字のない本、少ない本、絵本だって読書欲を満たしてくれ、何かを与えてくれます。ですから、“やわらかい”コンテンツの導入も進めてはきています。癒やし系の漫画もね。ご希望があれば、お知らせください。学生の皆さんが読書に関心を持ち、読書を楽しみ、そして実ったものを収穫できる環境をますます整えてまいります。どうぞ、読書を存分に楽しみましょう。図書館の学生参加型企画への参加も、お待ちしております。

◆◆ 図書館委員会メンバーからのお勧め本の紹介 ◆◆

『一刀斎夢録』(上) (下) 浅田次郎 著 文藝春秋 (文春文庫)

一刀斎夢録(浅田次郎著)が面白いですよ。相も変わらず時代小説にはまっています。中国ものから幕末ものへと変遷はしましたが、歴史物へのこだわりはぶれていないつもり。何かを得るための読書ではないので、乱読そのもの。ただどね、文字から情景を起こすのは、創造性の展開と自負(強烈な勘違いかも)しています。司馬遼太郎さんの「幕末」から「燃えよ剣」そして、浅田次郎さんの新撰組三部作へ。三部作の中では一番売れていないようですが、面白いですよ。まあ、出だしの「はあ？」感が売れていない原因かもという気がします。そこを辛抱すると、後はのめり込み。新撰組から警視庁へ、幕末から明治をへて大正まで実在したモデルがあるお話です。剣の極意は、一に先手、二に手数、三に逃げ足の速さ!だそうです。三を“見切り”とすると、そうかと思いつたこと多し。剣には無縁ですが、「こんな時にはこいつだったらこうするな」とちょっとばかり前を向かせてくれます。

図書館長・薬学部教授 鍛冶 聡



『99・9%は仮説 思いこみで判断しないための考え方』竹内薫 著 光文社 (光文社新書)

本書の帯には『理系』の考え方をギュギュッと凝縮」とあり、一見すると理系の人向けの書籍の様に感じるとは思いますが、むしろ文系の人ほど読んで欲しい書籍です。本書を読むと、常識、前例、先入観、固定観念…そんなものは全部仮説にすぎないといったことに気付かされます。

文系の人には、本書を読むことによって、テレビやネットで様々な専門家が話している内容の多くが、特定の条件下で得られた仮説にすぎないと気付いて欲しいと思います。また、理系の人には、講義で学ぶ多くのことが現象を説明するための仮説であるということ意識して欲しいと思います。

薬学部教授 手塚 康弘



『北の海』(上) (下) 井上靖 著 新潮社 (新潮文庫)

2022年9月23日秋分の日である。読書の秋を迎え、手には本書があり、文庫本の紙の香りと手触りが心地良い安心感を与えてくれる。これまでに、ゼミ演習時に運動部所属の学生達と共に本書を講読してきた景色を思い出す。「練習量がすべてを決定する 柔道」のフレーズは、県外入学者で課外活動に没頭するゼミ生達の心に響いた。

近年の私立大学コンプライアンス下において学生達は「自由」を、経営者達は「規律」をそれぞれ優先する指針を選択しがちである。本書は健全な課外活動を通し、「潮とどろく日本海」眼下の地で、「自由」と「規律」の本質の一端を教えられるだろう。

経済経営学部教授 南谷 直利



『林中書』 『ちくま日本文学 石川啄木』に収録 石川啄木 著 筑摩書房 (ちくま文庫)

明治の天才歌人として知られ、「一握の砂」や「悲しき玩具」の中の短歌が今でも輝きを放っている石川啄木は、同時に鋭い批評家でもあった。

『林中書』は彼の教育論であるが、その中に次のような記述がある。「教育の真の目的は、「人間」を作る事である。決して、学者や、技師や、事務家や、教師や、商人や、農夫や、官吏を作る事ではない。どこまでも「人間」を作る事である。」

本書の主張の中でよく知られているのは、「教育の最高目的は、天才を養成する事である」の方であろう。筆者はこの点には賛成できないが、人間を作ることが目的、という意見には強く共感する。幅広い教養こそが、誰にとっても、その後の人生をより豊かにしてくれるのではないだろうか。そのためにも、一読を薦めたい。

国際コミュニケーション学部 心理社会学科長・教授 林 洋一

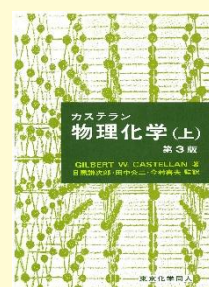


『ちくま日本文学
石川啄木』に収録

『物理化学』(上) G. W. Castellan 著 目黒謙次郎・田中公二・今村喜夫 監訳 東京化学同人

初年次学生のころ教科書として読みました。講義ではことばによる説明を心がけていますが、しばしば数式で表現する衝動におそわれます。そのほうが一般的で、正確に対象のふるまいを表現できることも多いのです。脳内の数理化こそは若者の特権であり、経験と訓練次第です。悪いことは言いません。本書に限らず専門領域を上手に数理化した良書と正面から取り組むことをお勧めします。本書は他書と比べて数学的に厳密かつ丁寧に書かれています。読むときはぜひ紙を傍に鉛筆を手に、実際に骨格筋を動かしてみましょう。単なる式の導出ではなく、その数学的意義を考えながら、ぜひ先生に質問し、すすんで同級生に説明してみましょう。

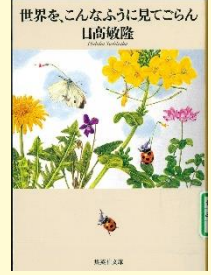
医療保健学部教授 二ノ倉 欣久



『世界を、こんなふうに見てごらん』 日高敏隆 著 集英社 (集英社文庫)

作者は、動物行動学者である。彼が日本動物行動学会を立ち上げるまで、日本国内には動物行動学という学問は存在していなかった。それまで、動物の行動をおもしろく話すことはあっても、それを学問として捉えられることがなかった。しかし彼は、いきもの行動のすべてに意味があることを、いきものをじっくり観察することで明らかにした。なぜ、アゲハは花のない木の梢あたりを飛ぶのだろう。猫と犬の違いは？作者は「なぜ」をあたため続け、いきものの観察を通して人間を理解しようとした。ものごとを豊かな見方であらゆる方向から観察してみよう。そこから導かれる答えがあるはずだ。「世界を、こんなふうに見てごらん。」

薬学部助教 畑 友佳子



『学問論』 シェリング 著 西川富雄・藤田正勝 監訳 岩波書店 (岩波文庫)

そもそも大学や学問研究の理念とは何なのか。今こそ改めて真剣に考える必要がある。かつてドイツの哲学者ヤスパーズは『大学の理念』(1923年)において、すべての学問が相互に関連し合い、ひとつの全体を形成しているということはひとつの哲学的理念であり、この理念からはじめて諸学問の一体性が知の全体を形成しようとする課題として生まれてくる、と述べた。かれの言葉を借りて言えば、大学は本来「相互に無関係な諸学校の集合体」でもなければ、欲しいものを何でも供給してくれる「精神の百貨店」でもないのである。もしそうなれば、「それは大学の墮落である」とヤスパーズは言う。

この主張の120年前にすでにシェリングは述べている。「諸学問の有機的全体の認識が、個別分野のための専門教育に先立たなければならぬ。特定の学問に専念しようとする人は、その学問がこの全体のなかで占める位置と、その学問に生命を与えている特殊な精神とを知らなければならぬ。」諸学問は哲学を基盤として有機的に連関しているのであり、それをシェリングは「普遍的なエンツェクロペディー」として構想している。

シェリングが学生と教師に要求していることは今日においても妥当である。「若者は、大学ではじめて自分で判断することを学び、訓練することを求められる。その職に値する教師であれば、自分の精神的卓越性、学問的教養、そして教養をさらに広くしようとする情熱によって獲られる尊敬だけを求め、それ以外の尊敬を求めないであろう。無知な者、能力のない者のみが、この尊敬を他のもので支えようとする。」真の尊敬を獲得するためにいかになる条件が必要であろうか。「教師に精神的自由のみを与え、学問的な事柄に何の関係もない考慮で彼らを束縛するのをやめるがよい」とシェリングは勧告する。

学問に対する実利的・功利的傾向がこれからの思考や行動に深く入り込んでいる今だからこそ、シェリングの『学問論』(1803年)を読むことには意義がある。大学や学問研究の理念とは何なのか。深く考えずにはいられない。

経済経営学部教授 松本 和彦



『津軽』 『今読みたい太宰治私小説集』に収録 太宰治 著 小学館 (小学館文庫)

1909年6月19日太宰治(本名:津島 修治)は青森県金木村(現在は五所川原市)に津島源右衛門の六男として生まれる。津島家は県下では有数の大地主であり、彼は成長し世間を知る度に、周りとは違う自分に苦しみことになり、またそれが太宰文学の根底となる。1939年結婚を機に彼の作品に穏やかさが感じられるようになる。

そして約10年ぶりに故郷を訪れ、生母に会っている。その後1944年友人と津軽半島をほぼ一周する旅をし、『津軽』となる。幼少時病弱だった母に代わって叔母に可愛がられ、女中のたけに育てられた。

このたけに会うことこそ、この旅の目的だったであろう。作品の最後に、「さらば読者よ、命あらばまた他日。元気で行こう。絶望するな。では、失敬」とあるが、どうしてこの穏やかな作品をこんなふう結んだのか、何年後の自死を予言しているようで。失礼ながら、読者の方からこのような励ましの言葉を太宰に送りたい。

国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科准教授 大東 万里絵



『今読みたい太宰治私小説集』に収録

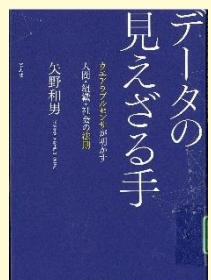
『データの見えざる手 ―ウェアラブルセンサが明かす人間・組織・社会の法則』 矢野和男 著 草思社

本書は、ウェアラブルセンサで計測した社会現象と人間行動のデータを分析することで得られた人間と社会の見えない法則について紹介している。特に、流通業界の専門家との売上対決の劇的な結果が印象的である。

近年、AIやデータサイエンス、IOTという言葉をよく耳にするようになった。これらは、ヒトやモノからデータを取得・解析し、人間の生活に活用するための手法であるといえる。ただし、信頼性の乏しいデータを処理しても無価値である。

本書では信頼性の高いデータをいかにして無意識・無拘束で取得し処理するかという点に関して、とても重要なことが書かれている。AIやデータサイエンスを活用しようと考えている方にはぜひ読んでほしい一冊である。

医療保健学部講師 服部 託夢

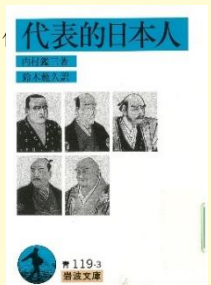


『代表的日本人』 内村鑑三 著 鈴木範久 翻訳 岩波書店 (岩波文庫)

本書には代表的な日本人として、西郷隆盛、上杉鷹山、二宮尊徳、中江藤樹、蓮如上人の5名が挙げられています。その中でも特に上杉鷹山は第35代アメリカ大統領 J・F・ケネディが最も尊敬した日本人です。

これら5名の偉人に共通するのは自分自身の事だけを考えるのではなく、日本の将来について真摯に考え、徳を積んだ利他的心で行動してきたことです。国際化社会といわれる時代だからこそ、世界に偉人や伝統文化など日本人の素晴らしさを紹介してほしいと同時に、紹介すべき日本人の素晴らしさが書かれた書籍も見つけてほしいと願います。

図書館事務課長 田邊 良和





学生の図書館利用方法



よく図書館を利用している学生の皆さんから、それぞれの図書館利用方法などを紹介してもらいます。



図書館で出会った本

経済経営学部 マネジメント学科 3年次生

小田 尚斗

皆さんは図書館を利用したことがありますか？

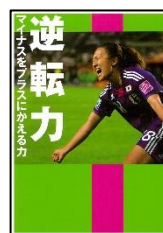
私は、図書館は本を読む時だけではなく、授業の課題を行う時も自習スペースとしても頻繁に利用しています。それでは、私の図書館利用のメリットについて紹介したいと思います。

1つ目は静かな空間の中で周りの目を気にしないで課題に集中できることです。大学内の場合、どうしても周りが気になってしまい集中することが難しいのですが、図書館の場合、静かな空間なので課題にとっても取り組みやすい環境だと思っています。

2つ目はわからないことをすぐに調べられることです。スマホが主流の時代になりましたが、相対的に本や雑誌に書いてある事柄が正しい内容だと私は考えています。だからこそ、図書館を利用しないのはとてももったいない事だと思っています。

3つ目は最も大切なことですが、良い本に出会うことができる場であることです。私は卓球部に所属しており、7月6日から9日、愛知県で行われた第91回全日本大学総合卓球選手権大会（インカレ）の団体の部において創部初のベスト16に入ることができました。私もレギュラーとして試合に出場しました。私は昔から緊張してしまいネガティブ思考になる癖がありました。自力では治らないため、どうしようか迷っていたところ、図書館に所蔵してあった『逆転力～マイナスをプラスにかえる力』（丸山桂里奈著、宝島社、2012年）という本に出会うことができました。丸山桂里奈さんはご存知のとおり、女子サッカー2011年ワールドカップドイツ大会で、なでしこジャパンの一員として世界一になった選手です。この本を読み終えてそのような考え方もあるのだと思い、試合前は、著書に書かれていた「人との出会いは無駄にしない。」「あなたの周りに、あなたのことを想っている人がきっといる。」「つらいときは、楽しいことを具体的にイメージする。」「ミスは当たり前。ミスをしたときこそ積極的に。」「誰かのために」戦うとき、人は本当に強くなれる。」などの「逆転の一言」をよく思い出しながらプレーをした結果がベスト16に繋がったと思います。

最後に、人は生きていくうえで、必ず何かしらの組織とかかわる必要があります。私自身、卓球部員であると同時に経済経営学部生として、これからも図書館を利用しながら勉強と卓球の更なる向上を目指していきたいと思っています。そのためにまず『マネジメント [エッセンシャル版] -基本と原則-』（ピーター・F・ドラッカー著 上田惇生訳、ダイヤモンド社、2001年）を読み込み、これまで取り組んできた卓球を通じていかに社会に貢献できるか、自分自身ならではの使命や役割などを見つけていきたいと思っています。その答えが必ずこれからの私自身の就活や人生に役立つと考えています。



理想の本と出会う読み方

薬学部 薬学科 4年次生

宮崎 琴音

本、読んでますか？

「本を読む暇なんてない」と感じる人も多いかもかもしれません。2021年に実施された、全国大学生生活協同組合連合会の読書調査では、約50%の大学生の読書時間が1日0分という悲しい結果が出ています。

ところで、世界で起きていることをわかりやすく伝えてくれることでおなじみの池上彰さん。彼は「世の中を理解するには書籍がベースだ。」と言っています。加えて、「いい本に出会うにはたくさん読むしかない。」と。

そんなこと言われても時間は有限です。私は本が好きですが、石川県立図書館を訪れた時に、膨大な本に囲まれる異空間のようなワクワク感と同時に「一生かかってもこの本全ては読み切れないんだな。」という妙な切なさも覚えました。みなさんにも「時間があれば読みたい、知りたい」と思う本や分野はありませんか？

限られた時間の中でどうすれば「知識と教養を得ること」を目的とした読書ができるのか。その答えとなる本に出会いました。それが『僕らが毎日やっている最強の読み方』です。著者は池上彰さんと、池上さんが「知の巨人」と称する作家の佐藤優さんの2人。この本から私が「使える」と思って実践した2つのポイントを紹介したいと思います。

ポイントその1「本を仕分ける」

本を選ぶのって難しいですよね。どの本がいいのだろうかと悩んでしまいます。そんな時に意識することが「本の難易度」と「本の質」です。時々「何が書いてあるのか理解できない」本に出会います。こういった本は知識の積み重ねが必要な本で、今の自分のレベルに合っていないことを表しています。興味を持ったばかりの分野や専門外の分野は入門書や一般向けの本から読んでいくのが効率的です。「質が低い」は、内容が薄いものや発見が少なそうなことです。また、論理的つながりに欠けることも指します。判断するために、まずは「はじめに」と「おわりに」に目を通します。その次に「真ん中」を拾い読みします。こうすることで、表紙や帯だけで判断するよりも合う・合わないがはっきりします。「はじめに」「おわりに」は割かれているページ数も少ないのでせいぜい数分。これだけで自分にぴったりの本を探し出せるのです。

ポイントその2「読書ノート」をつける

本を読んで終わりに、なっていませんか？

たまに「読書は意味がない」という意見がありますが「読んでいるだけで行動にならなかつたら意味がないよね」ってことだと思います。ごもっとも。

とかいう私も読むだけで終わっていました。池上さんは「本を読んだらそれでおしまいせず、その内容を自分の中できちんと消化する時間が必要」と話しています。実際、読んだ直後で「よかった」と思っても「何がどうよかったのか」、「どんな言葉が残ったのか」忘れてしまうものです。そこで活躍するのが読書ノート。本書では本に書き込みをするなどともありましたが、抵抗ある人もいますよね。それに借りた本には書き込めません。そこで、ノートを一冊用意します。本のタイトルを記し、読みながら印象に残った言葉とページ数を記録します。これだけで記憶に残るので読書の質が上がったと感じました。どうせ読み返さないとっても（私はノートを見返さないタイプの人です）別の本の内容をメモするときにパラパラとめくり、目に飛び込んでくることがあります。「残しておいてよかった」と思える瞬間です。

こうして読書のスピードと質を上げた結果、面白いことに気づきました。それは「同じジャンルの本を3冊読めばエッセンスがわかる」ということです。簡単に言えば、よく出てくる言葉に気づくことです。

みなさんにはこんな経験がありませんか？

授業でどこが重要なかさっぱりわからない。そこで、参考書を読み問題集を解く。何度も出てくるところから「ああ、ここが重要なんだ」と理解できてくる。

これと同じです。初めて学ぶことは、どこが幹でどこが枝なのかわからなくなり、全体像がぼやけてしまいます。1冊からポイントを把握するのは難しいです。でも、数冊読めば重なるの部分から予想できますよね。知識が自分の中で体系づけられる感覚になります。

こうなればお手の物。「はじめに」「おわりに」に目を通して、合いそうな本の目次から気になる所を拾っていくだけで芽づる状に知識が深まっていくと感ぜられるはずです。

本の仕分けも大事です。難しい本はなかなか手が進みませんよね。読み始めてから行きづまると、やらなきゃいけないことを先延ばしにしているような変な自己嫌悪に陥ります。でも、仕分けの段階で今読むべきか判断すればスイスイと読めるんです。「読み始めたら1字残らず、最後まで」という読み方は「知識と教養」を目的とする読書には合わないと感じます。もっと気軽に、少し手を伸ばしたら知識が待っているという感覚で読書してみるのはいかがでしょうか？

というわけで、「本の仕分け」「読書ノート」という2つのポイントを紹介しました。簡単な習慣で読書の質が上がるのでぜひ試してみてください。

やっぱり誰が何と言おうと本はいいです。言語も時代も飛び越えて、あなたの悩みを解決し、人生を生き抜くヒントを教えてください。読書体験を積み重ね、どの本から得た知識なのかわからなくなったころにはあなた自身の言葉として出てくるはずです。

1年前の自分より成長した自分に出会ってみませんか？

みなさんと出会うべき本たちが、読まれるその日を待っていますよ。



読書ノート



私の図書館利用方法

薬学部 薬学科 5年次生 生地 正育

今までは勉強で利用していた図書館ですが5年生になり、実務実習（薬局・病院）で医療現場を体験しながら、主に卒業研究における調査研究の面で図書館を利用させていただいています。卒業研究を行うには論文を読み込む必要があります。私は主に医中誌 Web や PubMed の二つのデータベースを用いて文献調査を行い、研究テーマに必要な論文などを探しています。

上記の検索機能から論文を探す際、ジャーナルが複雑化しているため、本学でダウンロードできるか否か分からない点も多々あり、その際には図書館司書の方に相互利用や複写を依頼し、後日連絡をいただき、申し込んだ論文を受け取っています。中には大学の図書館のものを利用させていただくこともあり、文献を探す際には司書の方にお願いし一緒に探していただき、管理されている文献に関しては何度も文献を出していただくこともあります。

薬学部生の皆さんは卒業研究では必要な論文を探し出す事が大切になります。皆さんの中には図書館の利用方法はわからない方もおられると思いますが、私も5年生になってから司書の方に詳しく丁寧に教えていただきました。図書館では定期的な講習会のみならず、わからないことはカウンターで司書の方に相談を行えば対応して下さいます。一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



二次資料検索と電子ジャーナルの講習
(薬学部分館)



私のお薦めする図書館利用方法

国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科 4年次生 大坪 紗也

皆さんこんにちは。夏休みは充実していたでしょうか。長い夏休みも終わり、過ごしやすい季節がやってきますね！友人との時間やアルバイト、サークルなどに大忙しかと思いますが、その中でも大切な勉強の時間を図書館で過ごしてみてもいかがでしょうか。そこで私のお薦めする図書館の利用方法について紹介します。

大学生になりレポートを書く機会が多くなりました。私はよく図書館でレポートを作成します。家だとなかなか手が進まないこともありますが、図書館では気軽に参考資料や文献を探ことができ、加えて静かな空間なので集中して取り組みます。論文検索では CiNii Research や Google Scholar をよく利用しています。私は特に4年生になってから卒業研究のテーマ決めや先行研究で図書館を利用する頻度が高くなりました。インターネットで参考資料や論文を探すのもいいですが、実際に図書館で本を手にとって探すのも新しい情報や発見ができるので楽しいです。自分が探している資料や論文の居場所が分からなくても OPAC で検索したり、図書館の方に教えてもらえるおかげで円滑に卒業研究を進めることができている。

また私の所属している学部では TOEIC や HSK などを受験することがあります。図書館にはそういった TOEIC や HSK などの資格試験の対策本が豊富に揃っています。私は何冊か借りて練習問題を解いてから試験に臨むようにしています。自分で購入せずともたくさん問題集で練習したり、自分に合うものを探したりできるので活用しないのはとてももったいないです！

私は来年からは社会人として働くことになり、今までのようにいつでも気軽に図書館に行くことはできなくなりますが、残りの大学生活ではたくさん図書館を活用したいです。ここで紹介した利用方法はほんの一部なので、皆さんも自分に合った図書館の利用方法を見つけに図書館に行ってみてください！



英検・HSK 関連



TOEIC 関連



私の図書館利用方法

国際コミュニケーション学部 心理社会学科 2年次生 庄本 萌恵

大学生になると、多くの自由な時間が生まれますが、その自由な時間を皆さんは何に充てていますか。私は、自由な時間を図書館で過ごすことが多いです。北陸大学の図書館は、静かでとても過ごしやすい環境であるため、空きコマに課題をやったり、気になっていた小説を読んだりするのにぴったりの場所です。また、最近では主に、実験レポートを書くのに図書館を大いに利用しています。2年生になってから、「心理学実験」という科目が開講されました。そのレポートを書く際に、必要な引用文献を探すためによく図書館を利用します。また、実験レポートを書くにあたって、実験内容や目的が授業だけで理解するには不十分な時があります。そのような時は、それに関連した本を読んで理解を深めています。

ここで北陸大学の図書館にある書籍で心理学科の学生さんにおすすめしたい2冊の書籍をご紹介しますと思います。1冊目は、有斐閣の『心理学・入門—心理学はこんなに面白い—改訂版』（サトウタツヤ・渡邊芳之著、2019年）です。この本では、心理学の概要から、それぞれの分野、また心理学の歴史までわかりやすく紹介されています。心理学について大まかに知りたいという人にはもちろん、心理学についてくわしく勉強したい人が最初に手に取る本としてもおすすめです。2冊目は、講談社の『心理学統計入門—わかって使える検定法』（坂口典弘・森数馬著、2017年）です。心理社会学科に在籍していれば、実験で必要になるのが統計です。心理社会学科の1年生は、ちょうど心理学統計法を受講している時期だと思います。2年生からは、実際に実験を行い、統計をとり、そこから考察するということが必要になります。そこで使う統計ですが、授業だけを聞いて簡単に理解するのは難しいと思います。おすすめしたこの本は、カラー印刷で文字ばかりでなく、イラストも多く使われているため、視覚的にも内容が頭に入っていくやすく、とても分かりやすいです。統計に対して苦手意識がある人は、ぜひ教科書の補助としてこの本を読んでみてほしいです。

最後に、いきなりですが、皆さんは1日にどれくらいスマートフォンに触れているのでしょうか。つい最近、自分が1日あたりに何時間携帯を触っているのか見たところ、平均で7時間ほど触っていました。夏休み期間中で、普段より自由な時間はあったとは言え、そんなに使っていたことに驚いた反面、それに自覚していない自分に対しても驚きました。そこで、最近では「デジタルデトックス」を意識して、読書時間を最低20分設けるということを始めました。始めてまだ日は浅いのですが、文章を読み、想像力をもって物語を追っていくことは、読書をあまりしてこなかった自分にとって、始めは疲れることが多かったのですが、慣れてくると楽しいものになりました。多くの自由がある大学生活において、勉強やサークル、アルバイトを行っている、あっという間に一日が経過してしまいます。しかし、その中に少しの読書時間を挟むことで、平凡な毎日に少しの刺激を与えることができると思います。また、読書を通じて得られた新たな知見は、物事をより広い視野で多角的に見ることを可能してくれるでしょう。もともと本を読むのが好きな方はもちろん、久々に読書を始めようかなと思った方は、ぜひ図書館に足を運んでみてください！





図書館の有効活用

医療保健学部 医療技術学科 3年次生 浅井 航

皆さん、図書館をどれだけ利用していますか！？

私たち、医療保健学部の学生は臨床検査技師、臨床工学技士を目指していることもあり、それらの国家試験に関する図書館資料の貸出や勉強の場としてよく利用しています。

図書館本館の4階には医療保健学部に関係する図書や雑誌が多数纏めて配架されており、非常に効率的に勉強できる環境になっています。また、定期試験前や定期試験期間中は日曜日も開館しているので、勉強するのに大変役立っています。

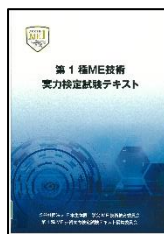
特に、私自身は図書館に所蔵のある公益社団法人日本生体医工学会発行の『第1種ME技術実力検定試験テキスト』や『第1種ME技術実力検定試験問題解説集』など国家試験に関する過去問題や講義や過去問題で分かり難かった分野（電気工学、生体計測、治療機器など）に関する内容を補完する参考書をよく利用し、知識を高めています。また、図書館には「学生リクエスト」や「学生選書会」などの企画があり、本当に必要な資料を求めている時には助かっています。

その甲斐もあり、目標にしていた臨床工学技士国家試験に繋がる公益社団法人日本生体医工学会主催の「第1種ME技術実力検定試験」に合格することができました。

これからは、国家試験のみでなく、実際に病院など医療現場の業務の体験を行う臨地・臨床実習（病院・施設実習）やそれを踏まえての卒業研究も行うこととなります。

その際には、図書館資料だけでなく、様々な臨床系の論文を探すための検索サイトである医中誌Webやメディカルオンラインなどのデータベースも有効活用し、立派な医療人を目指すためにも、医療保健学部生に相応しい内容の研究を行っていきたいと考えています。

皆さん、図書館は勉強する場所ではありません。有益な資料や、私自身がこれから利用したいデータベースなども揃っています。ぜひ工夫しながら図書館を有効活用していきましょう！



第1種ME関連テキスト・過去問題集

◆◆ 第1回読書会 ◆◆

第1回読書会を7月8日（金）に本館4階ソフィアルームで行い、学生6名（薬学部生1名、経済経営学部生3名、国際コミュニケーション学部生2名）の参加がありました。

読書会では、読書体験を語り合うことによって、本の魅力を参加者全員で分かち合い、普段読むことのない本を知ることで、読書の幅を広げることなどを目的として初めて開催しました。参加した学生は各自で持参した本の魅力などについて熱く語り、それについて参加者同士で語り合い、読書に対する交流を深めました。



◆◆ 第1回読書会 参加者の感想 ◆◆

薬学部 薬学科 3年次生 神門 宏香

読書会で自分の本を紹介したことで、自分はその本のどのような点に感動したのか、どのような出来事を面白いと思ったのかを深く考えるきっかけになりました。普段は、本について感想を抱いてもどのような所がどのように感じて面白かったのかということ人を人に説明できるほど深く考えることがありませんでした。

しかし、読書会を通して自分はその本のどのような点に心惹かれたのかということ具体的に再確認することができました。人に自分の感想を伝えるのはとても難しかったし、自分が感じた感動や面白さをありのまま伝えることは難しかったのですが、他の参加者の方から「その本を読みたいと思った」といった感想を伝えていただき、少しはこの本の魅力が伝わっていたのではないかと感じ、嬉しかったです。また、他の参加者の方からさまざまな質問を受けたことで、自分が気づけていなかったその本の魅力を見つけことができ、再読する際にはまた違った視点から物事を考えるきっかけになりそうだと感じました。

さらに、他の参加者の本紹介を聞いたことで、私が読んだことのある本やそうでない本、自分では手に取らなさそうな本など、様々な本に出会うことができました。読んだことのある本でも、自分が心に残った場面とは異なる場面が印象的であると語っていたり、主人公が抱いた感情について異なった解釈を行っていたりして、その違いがとてもおもしろく感じました。読んでみたいと思っていた本や、気になっていたけれど手に取れていなかった本、自分では絶対に手に取らないであろう本についても紹介されていて、様々なジャンルの本を手にするきっかけになったと思います。



経済経営学部 マネジメント学科 3年次生 永野 蒼馬

第1回読書会に参加させて頂きありがとうございました。

はじめは、参加者の多さにやや緊張していましたが、読書会がはじまってみると落ち着いた空間で参加者同士の意見交換が盛り上がり非常に楽しむことができました。私は人前で話をするのが苦手ですが、読書会で私自身が人前で話すという貴重な体験をさせて頂いたことによって自信が付き、大きな変化だったと感じています。また、参加者各々が紹介する本についてフラットに語り合うことによって、多角的な視点が見つかり本の楽しみ方の幅が広がりました。

読書会を開催くださりありがとうございました。



経済経営学部 マネジメント学科 2年次生 岡田 和也

第1回読書会に参加させて頂きありがとうございました。

これまで自分自身読書から学んだことを人に伝える機会がなかったため、参加させて頂きました。自分自身が人前で発表する良い機会になり、また他の方の発表内容や選んだ本などについて皆で楽しく語り合うこともでき、大変有意義なひと時でした。自分自身が驚いたのは読書が好きな人が想像以上にたくさん居てくれたことです。嬉しく感じました。ただ、専門書よりも小説を選ぶ方が多く意外でしたが、小説の良さも分かり視野が広まった気もしています。

ぜひ次回も参加させて頂き、更に読書が好きな方との交流を図れればと思います。

読書会という本が好きな自分自身には最高の場を開いていただき誠にありがとうございました。



経済経営学部 マネジメント学科 1年次生 西岡 春喜

私は今回読書会にはじめて参加できたことを嬉しく思います。1年生が私1人でとても緊張しましたが、先輩方が良い雰囲気を作ってくださいだったので読書初心者の自分でも、自分らしく本の紹介ができたと思います。皆さんの紹介はさすが先輩という感じでどれも実際に読んでみたいと思うような紹介の仕方でした。また、良い本に出会えたらぜひ紹介させて頂きたいと思います。

今回はありがとうございました。



国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科 3年次生 牧 太貴

第1回読書会に参加させていただきありがとうございました。

今回参加させていただいた理由としては、読書について他の人と語り合うという経験がとても魅力的に感じたからです。また、私はもともとたくさん本を読む方ではなく、この機会にお薦めの本を知ることによって、読書について語り合うことで私の知らない読書の魅力をさらに知りたいと思っていました。

実際に参加した感想としては、とても期待通りの会だったと思いました。みなさんそれぞれお薦めの本を持ち寄ってその本について深く語り合うことで私が気づかなかった読書の魅力を知ることができ、とても楽しかったです。また、各々紹介する本に対しての感想や捉え方が三者三様で、本人が考えもしないような考えをほかの人は持っていたりするので、それを聞くのもとても興味深かったです。

読書は本来一人で楽しむものですが、今回の読書会のようにいろいろな人に共有することで自分では気づき得なかった新しい発見をできると思います。本が好きでみんなと共有したいと思う人はぜひとも参加してほしいと思いました。また、私のように普段はあまり本を読まないけど、みんなに紹介したい、とっておきの一冊を持っている人やこの機会に新しい本とめぐり逢いたいと思う人にも、とても有意義な時間になると思います。



国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科 2年次生 山下 瑠成

本の世界は自分と自分が本当に読んだ本だけの世界なので、他の人の本を読んだ感じ方がわからなかったが、今回のように会を開いて話し合うことによって自分と同じ考えを持っている人がいるのだなと実感することができました。



◆◆ 寄贈図書 ◆◆

本学の役員・教職員から、下記のとおり図書の寄贈がありました。紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

自著	寄贈者
『絵でまるわかり：分子標的抗がん薬』改訂2版	計2冊 石川 和宏 (薬学部教授)
『企業の地域密着：「生活者の顔」を持つ企業に着目した地域活性化の可能性』	計1冊 中川 衛 (経済経営学部教授)
編集・分担執筆	寄贈者
編集：『骨代謝マーカーハンドブック』	計2冊 三浦 雅一
分担執筆：『高齢者診療のための臨床検査ガイド』	計2冊 (理事・薬学部教授・地域連携センター長)
分担執筆：『医師・メディカルスタッフのための図表で学べる骨粗鬆症：悩む前にこの一冊！』	計2冊
分担執筆：『大学発のリーダーシップ開発』	計1冊 杉森 公一 (高等教育推進センター長・教授)
その他	寄贈者
『塞王の楯』他	計22冊 泉 洋成 (理事)
『成功者の名言』他	計5冊 三浦 雅一 (理事・薬学部教授・地域連携センター長)
『戸籍実務六法』他	計3冊 胡 光輝 (経済経営学部教授 国際交流センター長 留学生別科長)
『信長燃ゆ』上・下他	計12冊 田邊 良和 (図書館事務課長)
『樹木希林120の遺言：死ぬときぐらい好きにさせてよ』他	計3冊 西村 香佳里 (薬学総務課職員)

北陸大学図書館報 No. 53 令和4年10月20日発行

編集・発行：北陸大学図書館 〒920-1180 金沢市太陽が丘1-1 TEL. 076-229-3021 FAX 076-229-4850

Eメール：lib@hokuriku-u.ac.jp 北陸大学図書館ホームページ：<https://www.hokuriku-u.ac.jp/library/>

長期ビジョン 北陸大学 Vision50 (by2025) ……2025年までに学生の成長力No.1の教育を実践する大学となる。